



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	インターネットへようこそ 4 : マルチメディア講座実践編
Author(s)	高井, 哲彦
Citation	英国ニュースダイジェスト, 506, 14
Issue Date	1995-09-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53058
Type	article
File Information	newsdigest506.pdf



インターネット

マルチメディア講座 実践編

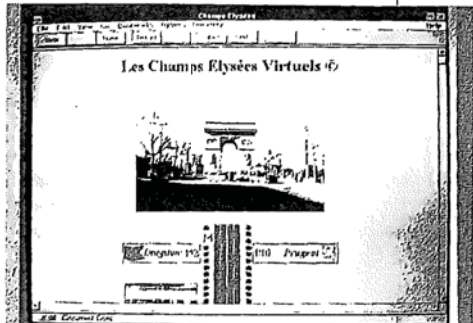
講師 高井哲彦

今、画像データベースの中で最も大きな位置を占めるのがボルノという状況です。スキャナーという装置で写真のコピーすれば、誰でも簡単に画像をコンピュータデータ化することができるといって技術上の進歩も、実社会と同じようにネットワーク上でもボルノが氾濫する要因の一つになっています。それにまつわる倫理上の問題については後述の予定ですが、今回は、大きな問題となっている著作権（コピーライト）について検証してみます。

●「コピー自由」の考え方

ネットワーク社会でも、「ブレイボーイ」誌のグラフィックページを無断で複製した人が断えられた、などよく耳にします。他方、FTPと呼ばれる従来のデータベースでは、「複製自由（コピーレフト）」と明記されたファイルも流通しています。FTPという転送機能を利用したデータベースの多くは、個人によって作成された各種のソフトウェアを、大学などが中心となって集積し、一般の便のために公開したものです。このためソフトウェアは、「フリーウェア」「シェアウェア」「製品試用版」「製品テスト版」などに分けられますが、この区別の背景にはネットワーク社会独特の所有権の考え方があります。フリーウェアは、作者が著作権を放棄したソフトウェアで、自由に流通、使

シャゼリゼ大通りでの仮想ショッピング。歩くにつれて画面の風景が変わる。気に入った店があれば中に入っていることもできる (Interway)



用・改変してかまいません。利用者は、無料でそのソフトを使用する代わりに、作者に感想や提案を送ることが期待されています。シェアウェアは、流通および試用は自由ですが、引き続き利用したいときは作者に料金を払います。使用料の支払

いと引き換えに、マニュアルや新バージョンが送られてくることもあります。面白いことに、店頭販売の一般商品より、無数の利用者が試用することで磨き上げられたフリーウェアやシェアウェアの方が、技術水準も使い勝手も優れていることは決して珍しくありません。事実、インターネットにアクセスするために利用されているソフトウェアの多くは、フリーウェアかシェアウェアです。

●デジタルな共産主義

フリーウェアは、利用者と対等な人間的コミュニケーションが、作者の制作の動機付けになっています。また、シェアウェアも、良い商品の開発には協力を惜しまないというネットワーク・コミュニティの良心を製作者が信頼することから始まっています。ソフトウェアや情報はFTPの財産ですが、この財産はネットワーク全体で共有して育てるものなのです。この考え方は、共産主義思想に近いかもしれません。

フリーウェアは狭義のソフトウェアだけに止まりません。たとえば、フロジエクト・グーテンベルクでは、二〇〇一年までに一万冊の古典全集を共有することを目指して、「不思議の

国のアリス」を手始めに、ボランティアで電子入力を進めています。ユースネットにおいても、人々が記事を投稿するの、広い意味では情報共有化の思想によるものだといえるでしょう。

ネットワーク社会の共産主義と資本主義

●複製技術の時代

音響や画像のデータベースも急増中ですが、こうして共有されるデジタル・データは、オリジナルとコピーの境

界があいまいである、という新しい強い特徴をもっています。たとえば、音響マニアたちは流行歌を採譜して、争うように音楽データベースで公開しています。このサウンド・ファイルは、誰がどこで再生

それともオリジナルと呼ぶべきなのでしょう。写真と映画が登場したとき、絵画や演劇にはなかった複製と反復という特徴を革命的なものとして、ヴァルター・ベンヤミンは「複製技術時代の芸術」と呼びました。ところが、完全複製ばかりが変形・加工までできてしまえば電子音楽やコンピュータ・グラフィックスでは、オリジナルであるがゆえの骨董的な価値は、決定的に薄れてしまします。デジタル技術時代の芸術は、実物のものがいつそう重要視されることでしょうか。

●資本主義化の波

ワークのニュースに自発的に記事を投稿し、FTPに無償でフリーウェアを提供するのでしょうか。あえて理由を挙げるとすれば、情報を提供することが、この仮想共同体における唯一かつ最上のコミュニケーション手段だからではないでしょうか。インターネットでは、質の高い情報を頻りに提供することが、コミュニケーションで信頼を築き、人望を集めます。ここで情報と対話の中で相互交換されるものの一つです。ところがここ数年、インターネットの商業化に伴い、マルチメディア情報サービスのWWW（ワールド・ワイド・ウェブ）が急成長して、FTPデータベースに取って代わろうとしています。WWWは、FTPと原理が異なり、特定

の大学、企業、組織、個人が情報を自分で作成し、一つの完成したサービスとして一般に提供するのは、この対等のコミュニケーションという要素は薄れ、送り手から受け手への情報提供という要素が強まっています。こうした論理の転換が、インターネットの文化を着実に変えてつづけています。

【訂正】

本連載第二回（五〇四号）の写真説明に誤りがありましたことをお詫言申し上げます。正しくは次のようになります。

日本の大型パソコン通信やアメリカの「コンピュサーブ」からもインターネットを経由してアクセスしたり、海外から電子メールを送ったりできる